

## 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表

令和 5 年 5 月 19 日

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			医療的ケア児の介助スペースを確保しながら定員内で十分遊べるようにしているが、トイレが1つしかなく、トイレ介助ができる空間が限られているが、医療用カーテン等を活用し、スペースを確保できるように工夫している。
	②	職員の配置数は適切であるか		○		運営上で必要な児童指導員や看護師を配置することができているが、余裕がないため職員が急に休めない。同事業部間で職員の派遣を依頼する等して工夫している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか		○		療育室からおもちゃがあるスペースの間に大きな段差がある。怪我の予防のため、マットを敷いている。利用児のバギーが大型化しており、入口のスペースが狭く、斜面が滑りやすい。滑り止め等を敷いて怪我を予防している。
業務改善	④	業務改善を進めるための PDCA サイクルに広く職員が参画しているか	○			常勤間では適宜業務改善のための話し合いができています。話し合った内容を連絡ノートに記載し、非常勤とも共有している。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			適宜実施している。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			毎年実施している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		保護者に対してアンケートを実施、集計して職員間で共有している。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか		○		事業所内での職員研修は実施できているが、外部の勉強会等にはコロナ禍ということもあり、十分に参加できなかった。
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	○			半年ごとに保護者と面談を実施したり、担当の相談支援員と情報交換を行ってニーズに応じた計画書を作成している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○		保護者や学校との間で適切に支援できるように連絡を取り合っているが、アセスメントツールを事業所内で使用したことはない。必要な場合は導入を検討する。

の 提 供	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		療育時間外に職員間で相談している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか		○	季節ごとの製作の実施など、工夫はしているが、トイレ、食事介助などの生活動作介助が多く必要なため、多様化が難しい。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	○		平日は宿題をメインに支援し、休日は歯磨きや昼食準備の手伝い、散歩等、個別支援計画に準じて個別に実施している。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	○		保護者との面談をもとに利用児に必要な課題を把握し、個別に計画を作成している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		連絡ノートや配車表を活用し、その日の役割分担や利用児の近況を共有している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか		○	送迎終了時刻や場所の違いから共有が難しいこともあるが、別日に共有したり、職員会の際に共有する機会を設けている。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		毎日個別のファイルに支援内容を記録している。

関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画見直しの必要性を判断しているか	○		半年に一度モニタリングを実施し、計画の見直しを行っている。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っているか	○		宿題や製作に取り組み、共に達成感を味わったり、皆の前で帰りの会の日直を進行することで集団生活に対する自信を養う支援を行っている。長期休暇期間は地域の行事やイベントに参加するために外出する機会を取り入れている。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加しているか	○		医療的ケアが必要な利用児は、必ず担当の看護師が会議に出席している。また、性別等も考慮し、最も関わりの深い職員が参加している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		保護者から一月事の下校時刻が記載された学校だよりを提出してもらったり、年間行事を提出してもらい、把握している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合、主治医等と連絡体制を整えているか	○		担当者会議で直接話し、主治医だけでなくリハビリや医療機器に関しても直接情報共有することができている。機器メーカーの担当者と連絡先を交換しており、機器トラブルがあった際は担当者が放デイに来てメンテナンスしてくれている。

関係機関や保護者との連携	⑳	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	○			就学前に保育園や児童発達支援センターへ見学に行き、担当者と情報交換を行った。
	㉑	放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、支援内容等の情報を提供する等しているか	○			担当者会に参加し、情報共有を行った。
	㉒	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○		各地域の相談支援や児童相談所によるケース検討会や当施設に訪れていただいた際に利用児についての情報を得ているが、コロナ禍ということもあり、例年よりも回数が減ってしまった。
	㉓	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか		○		コロナ禍になる前は地域のイベントに参加していたが、コロナ禍に入ってから人数制限や時間制限があり、参加する機会が減ってしまった。
	㉔	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか	○			案内が届いた際は、積極的に参加している。
	㉕	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○			連絡ノートや送迎の際に学校での様子も含め子どもの1日の状況を伝えるようにしている。

保護者への説明責任等	㉖	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか		○		直接的なトレーニングは難しいが、保護者からの悩みの共有等、面談を通して適宜行っている。
	㉗	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○			契約の際に重要事項説明書を配布し、口頭での説明も行っている
	㉘	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			面談や連絡ノートを通じて、適宜行っている。
	㉙	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか			○	コロナ禍ということもあり、実施することができなかった。
	㉚	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			連絡があった際、ただちに職員間で情報を共有し、対応するようにしている。また、ヒヤリハットを作成し、職員間でも問題を共有できるようにしている。
	㉛	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			法人による会報や、長期休暇期間の活動日程等のお便りを配布している。日頃の療育の様子については、連絡ノートを活用している。
㉜	個人情報に十分注意しているか	○			匿名性を心がけ、記録、管理をしている。	

	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		子どもや保護者に伝わりやすい資料作りや迅速な電話連絡を心がけている。言葉が話せない利用児には日常的に使用しているマカトン等を共有し、意思疎通している。
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○	必要に応じて今後企画していく必要がある。
非常時等の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○		年に数回避難訓練、通報訓練を実施し、職員間で共有、訓練している。また、同法人内の医療職が集まり、緊急時対応、感染症対応マニュアルを作成、更新している。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○		定期的に火災や利用児の発作を想定した通報、避難訓練を療育中に実施している。消防署と連絡を取り、通報訓練もしている。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○		研修への参加や、資料を読み合わせている
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○		送迎時にバギー又は車椅子で安全に乗っていただけるようにU字クッション等を用いて身体を固定することがある。実施の際は保護者に伝え、同意を得たうえで実施している。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○		事前にアレルギーや食事形態について確認し、対応することができている。
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		ヒヤリハットの作成による職員間の共有や職員会で対応策を検討するようにしている。